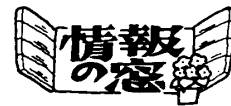


第31回SSORルポ



塩浦 昭義 (東京工業大学), 向井 くみこ (奈良先端科学技術大学院大学), 丸山 絵里子 (東京理科大学)

ひとことと言うと、「若手研究者・学生を中心とした、合宿のような研究会」. 研究発表会に加え、レクリエーション、毎晩の飲み会と、連日盛り沢山の研究会が、「SSOR」です。例年、参加者にはとても好評のSSOR、回を重ねて31回目、毎年楽しみに待っている人も少なくありません。今年は8月20～23日の4日間、茨城県稲敷郡の「レイクサイドくきざき」にて行われました。牛久沼のほりに位置する今回の会場は、ここ数年で最高!という評判が多数ありました。とにかく、施設、サービス共に申し分なく、食事大変おいしく頂きました。ただ、各部屋の蒲団の上げ下げまでしてくれる点は「SSORらしくない」との声も…

初日から振り返りましょう。会場に到着して受付を済ませた後、久しぶりに会う人達と挨拶をかわしているうちに、SSOR最初のセッションが始まりました。研究発表に先立ち、藤重先生(筑波大)による開会の挨拶があり、その中で、実行委員長の本山先生(筑波大)のメッセージが紹介されました。「SSORではしっかり勉強してください」とのこと、非常に耳の痛いお言葉を頂戴しました。

その後、初日は4件の一般発表がありました。発表を聞きつつ、部屋を眺めてみると天井にはシャンデリア、床には絨毯と、すごく豪華な部屋で、これまたSSORらしくない気がしました。ただ、会場には机が置いておらず、メモを取りにくいのが残念。

さて、研究発表も終わり、夕食を終えた後、今年も待ちに待っていた(!?)夜の飲み会が始まりました。一見、酒好きが集まって大騒ぎしているかのように映る



写真1 受付風景

この飲み会ですが、初めて会った研究者・学生同士が酒という触媒を介して親睦を深めるという、SSORにおいて非常に大切な時間なのです。例えば、今回は関東からの参加者が多く、その他の地域からの参加者は当初寂しそでしたが、飲み会を通して親しくなっているあたり、やはり飲み会はSSORに欠かせない、と思ってしまう。また、今回は修士学生の参加者が多いためか、非常に皆元気よく、12時を過ぎても飲み続けている人が多く見られました。ただ、その中には翌日午前中の発表者が数人おり、かなり酔っている様子。明日の発表は無事行われるのか、という心配を残しつつ、SSORの夜は更ける…

さて2日目、朝食をすまして発表会場に向かうと、集まっている人数は昨日に比べてやや少なめ。特に、昨晚騒いでいた人々が見当たりませんが、まだ蒲団の中で幸せに寝ているのでしょうか。また、発表者の1人は「二日酔いで頭が痛い」と辛そうにしています。あまり喜ばれたことではありませんが、これもまたSSORならではの風景かもしれません。

午後には、田村氏(電通大)による特別講演「パーフェクト双向グラフと整数計画問題」がありました。氏が最近興味を持っている話題について、基本的な事実から、氏による最近の結果まで、専門外の学生でも理解できる、わかりやすく丁寧な発表でした。2時間という長い発表時間でしたが、途中で息抜きのお話を交えたり、研究の経緯を話したりと、聞く人を飽きさせない心配りで、最後まで面白く聴かせて頂きました。

3日目になり、研究発表も半分以上が終わりました。



写真2 特別講演(田村氏)

今回の一般講演では発表者が少ないために、1人当たりの時間は例年より長い40分でしたが、ふだん学会等では聞けない詳しい話を聞けるため、聴衆の理解も深まり、なかなか好評でした。一方で、各参加者に配られる予稿集は各発表者につき1ページと例年に比べ短かく、少し不満がありました。より詳しい予稿があれば予習や復習もでき、発表の理解の一助になるので、次回以降のSSORでは再考をお願いします。

午後には南石氏(農林水産省)による特別講演があり、農業における数理計画の応用についての発表がありました。初日の巳波氏(NTT)による、通信網への数理計画の適用の話と同様、現場での需要に基づきORの適用を図ったという話題でした。両氏の発表を聞くことで、応用を意識した研究の重要性を再確認すると共に、改めてORの効力と魅力を実感しました。

夜の懇親会では、真鍋先生(文教大)の方からSSORという名称の説明がありました。

今回のSSORには“Summer Seminar on Operations Research”という正式名称が付いていたのですが、「もともとSSORは何の略称でもなく、皆が好きなように名前を考えて欲しい」とのこと。“Summer Seminar of Recreation”など、多様に解釈できるSSORですが、各参加者がいろいろな形で楽しめる本研究会をよく表していると思えました。また、懇親会には可愛

い特別ゲストの参加があり、歌の披露あり、似顔絵を描いてくれたりで、懇親会の場を非常に盛り上げてくれました。

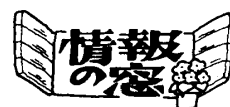
3日目の深夜もやはり飲み会で盛り上がりましたが、3日間飲んでも飲んでも、常に沢山のお酒が常備されているあたり、実行委員の準備の良さには素晴らしいものがありました。これは、SSORの飲み会を熟知している某実行委員のお陰なのかも？

最終日は、小島氏(東工大)による特別講演でSSORを締めくくりました。内容は難解だったものの、世界の第一線で活躍し続ける氏の発表を間近で聞くことで、刺激を受けた方も少なくないことでしょう。

さて、第31回SSORも成功のうちに終わりましたが、これは何よりも実行委員である筑波大の先生、学生、OBの方々のご尽力によるものでしょう。特に、学生・若手中心という本来の意義が達成できたものと感じています。この紙面を借りて、実行委員の方々に改めて感謝させて頂きたいと思います。

このルポは、向井(M2)、丸山(M1)の意見のもとに、塩浦(D2)がまとめたものであり、3人の学生の目から見た今回のSSORの感想を、あくまで主観的に書かせて頂きました。いろいろと失礼な意見も書きましたが、今後の開催校の参考になれば幸いです。

国際シンポジウム・最適化と計算ルポ



村松 正和 (上智大学)

去る8月12日より16日にかけて、文部省統計数理研究所主催によるInternational Symposium on Optimization and Computation (国際シンポジウム・最適化と計算)が、葉山の湘南国際村にある総合研究大学院大学において開かれた。招待された37名の講演者(外国人18人、日本人19人)により、1人40分の講演が5日間にわたって行われた。

今回のシンポジウムには、世界中から実に多彩な顔ぶれが揃った。準ニュートン法のBFGS公式のGとSであるGoldfarbとShannoがおられるか思えば、内点法に関する研究の第一人者であるYeや東工大の小島氏もおられる。また、凸計画問題に対する内点法でself-concordanceという概念を打ち立てたNesterov、正定値計画問題に関する論文で有名になったAlizadeh

のように、比較的近年になって頭角を現わしてきた人々も参加している。これらの発表者に一般参加を加えた70名ほどが、5日間を共にし、顔を合わせていろいろ意見を交換した。

1. 講演

清水良一統計数理研究所所長による開会のあいさつの後、中央大の伊理氏による“Physical Dimensions and Computation”によって講演が幕を開けた。物理的に意味のある式は左辺と右辺でその次元が同じである、という簡明な観察から始まり、ピボット選択はその意味で次元の違うもの同士を比較している、という話や、最適化や計算における共変・反変の意味合いなど、含蓄に富んだ話であった。続くGoldfarbは、一般